

第4編 生涯学習

第1章 生涯学習の拠点整備

第1節 群馬県立図書館

1 概 況

群馬県立図書館は、情報化、高齢化の進展など急激な社会変化の中で、県民の多様な学習要求に対応した生涯学習を支援するため、社会教育施設の中核として、県民の期待に応え得る図書館づくりに努めてきた。

本年度は、調査相談機能の充実を図るとともに、調査研究のための専門的な資料や調査に役立つ資料のほか、群馬県に関する資料や県内公共図書館・学校図書館を支援するための資料を重点的に収集することにより、専門的資料の充実に努めた。

また、情報の集積と発信を行うため、多様な主体と様々な連携事業（企画展示等）を実施した。

さらに、「群馬県子ども読書活動推進計画（第三次）」の推進を図るため、子どもの読書活動推進のための各事業に積極的に取り組んだ。

2 図書資料の整備状況

(1) 図書館資料保有状況（令和元年度末）

ア 図書

本館用（館内）図書	800,694冊
町村一括貸出用図書	12,804冊
団体貸出文庫用図書	37,071冊
計	850,569冊

イ 雑誌・新聞の受入

一般雑誌	2,052タイトル
郷土雑誌	1,714タイトル
新聞	124タイトル
計	3,890タイトル

ウ 視聴覚資料

合計	CD	カセット テープ	レコード	ビデオ テープ	DVD	レーザー ディスク
49,024	26,979	96	13,909	5,393	2,465	182

エ 新聞等マイクロフィルム（CD-ROM含む）

9,433巻

(2) 特別文庫

高橋文庫	7,623冊
中島文庫	14,192冊
住谷文庫	19,564冊
小野寺文庫	5,497冊
根岸文庫	5,228冊

(3) 県立図書館情報提供システム

ア オンラインネットワーク接続状況（令和2年3月31日現在）

データ提供館	69館
検索のみの参加館	93館

イ データ入力状況（令和2年4月1日現在） (件)

一般図書	郷土資料	雑 誌	視聴覚資料	合 計	登録書誌数
776,123	119,517	326,902	54,815	1,277,357	2,881,071

3 利用の状況

館全体の資料等利用状況

入館者数	240,388人
登録者数（本館）	136,849人
うち新規登録者数（本館）	2,224人
レファレンス件数	19,233件
インターネットホームページアクセス件数	455,698件
貸出人数（本館）	64,817人
個人貸出冊（点）数（本館）	294,447冊（点）
相互貸借冊（点）数	14,842冊（点）
開館日数	273日

4 事業概要

(1) 子ども読書活動推進事業

ア 図書館こどもまつり

群馬県選挙管理委員会と連携した「こども選挙」、ぐんま昆虫の森やぐんま天文台と連携した各種イベント、読み聞かせなどを2日間開催。参加人員は延べ350人であった。

イ 学校図書館研修会

学校司書等に対する学校図書館運営実務に係る研修を開催した。
参加人員は43人であった。

ウ 学校図書館図書支援1000冊プラン

指定地域5町村の学校図書館に、計2,720冊を貸し出した。

エ 学習支援・朝の読書推進図書セット貸出

- ・学習支援図書セットとして、273セット7,243冊を学校等54か所に貸し出した。
- ・朝の読書推進図書セットとして、年2回、計13,490冊を29校に貸し出した。

オ 全国高等学校ビブリオバトル2019群馬県大会

県内9地区から選出された高校生によるビブリオバトルを開催。
参加人数は147人であった。

(2) 各種主催・共催事業

ア 研修事業

図書館(室)職員初級研修(参加人員 63人)

図書館(室)職員実務研修(参加人員 71人)

イ 企画・実施事業

(ア) ぐんま新発見講座(7回開催、参加人員 延べ283人)

- ・古墳人、現る 金井東裏遺跡の奇跡
- ・富岡製糸場と絹産業遺産群 世界遺産登録の舞台裏
- ・田島弥平旧宅について
- ・高山社跡の保存修復での新たな発見
- ・上毛かるたに学ぶSDGs
- ・渋沢栄一と日本の近代文化 なぜ富岡製糸場や新町屑糸紡績所ができたのか
- ・庭屋静太郎と春秋館・世界遺産荒船風穴ー蚕糸業・地域にかけた静太郎の熱き思いー

(イ) 第17回県図書館大会(参加人員 320人)

(ウ) CDコンサート(3回開催、参加人員 延べ97人)

- (エ) 英語に親しむ会(2回開催、参加人員 延べ29人)
- (オ) 大人のためのおはなし会(3回開催、参加人員 延べ123人)
- (カ) 県立図書館活用パートナーシップ事業
 - ・ 県立図書館アフター5委員会(16回開催、参加人員 延べ80人)
 - ・ 子育て中の親のためのコーチング実践講座(9回開催、参加人員 延べ43人)
 - ・ ときめきルネッサンス・サロン(10回開催、参加人員 延べ207人)
 - ・ 詩を味わう会(5回開催、参加人員 延べ70人)
 - ・ 日本の伝統音楽を学ぶ(4回開催、参加人員 延べ106人)
 - ・ 図書館でライブ!?(5回開催、参加人員 延べ92人)
 - ・ 落語会～名人の十八番で味わう遊山の江戸噺～(5回開催、参加人員 延べ95人)
 - ・ まちかどサロン「シャロン前橋」(5回開催、参加人員 延べ62人)
 - ・ 「地域がんサロンぐんま 前橋サロン」(10回開催、参加人員 延べ158人)
- (キ) ぐんま天文台との連携/講演「ブラックホール」(参加人員 76人)
天文台deビブリオバトル(参加人員15人)

ウ 資料展示(図書館資料の紹介)

- (ア) 常設展示(群馬県立図書館の特別文庫)
- (イ) 企画展示

庁内各課等との連携展示、埋もれた資料に光をあてる展示を実施。

- ・ くまのパディントンTM展(県立近代美術館と連携)
- ・ ミステリーの夜明け
- ・ ここは上州、極上の湯(DESTINATIONキャンペーン推進室と連携)
- ・ がん予防展(保健予防課と連携)
- ・ ごんぎつね(土屋文明記念文学館と連携)
- ・ いい湯だなあ～♪-ぐんまの温泉 今・昔(文書館と連携)
- ・ 学校司書が出会ったいい本
- ・ アポロ月面着陸50周年記念展
- ・ 萩原恭次郎生誕120年記念展(土屋文明記念文学館と連携)
- ・ 上州湯めぐりものがたり(文書館と連携)
- ・ 西日本出身作家VS東日本出身作家
- ・ 神と人の物語(近代美術館と連携)
- ・ 桜に関する展示

雑誌展示

- ・ 花をたのしもう
- ・ 健康的にダイエット
- ・ かがくのとも 月刊科学絵本創刊50周年
- ・ ラグビーワールドカップ開催記念 ラグビー観戦を楽しもう!
- ・ 編み物で冬をたのしもう!
- ・ 壽子歳戯国賑『演劇界』展示

絵本展示

- ・ 近代美術館「くまのパディントンTM展」関連絵本
- ・ いろいろ写真絵本
- ・ おたんじょうびの絵本
- ・ 恐竜の本
- ・ やさいの絵本
- ・ のりものの絵本

- ・群馬ゆかりの作家の絵本
- ・いただきます おいしい絵本
- ・おやすみなさい 夜の絵本
- ・ねずみの絵本
- ・あなたがだいすき
- ・ぶたの絵本

(3) 市町村等支援

- ア 図書館未設置町村等図書配送サービス
4コース、12町村（5町7村）
- イ 市町村支援協力車による巡回サービス
5コース6ルート52館（高校図書館76館は相互貸借がある時のみ巡回）
- ウ ネットワークの推進
 - ・相互貸借の推進
 - ・Gネット（群馬県内図書館情報ネットワーク）への参加・接続支援

5 図書館協議会

協議会を2回開催し、館の運営について幅広い見地から意見をもらい、その実現に取り組んだ。

第1回 7月24日

第2回 2月14日

第2節 群馬県生涯学習センター

1 概 況

本県の生涯学習推進の中核的施設として、市町村及び関係機関・団体との広域的連携を図りながら、県民の多様な学習ニーズや社会の要請に応えるとともに、少年科学館や視聴覚センターを併設する多機能なメリットを生かし、子どもを含めたあらゆる世代の県民の学習活動を支援するため、次の4事項を重点として事業を実施した。

- (1) 生涯学習環境の整備
- (2) 社会の要請への対応
- (3) 少年科学教育の推進
- (4) 施設の活用促進

2 事業の概要

- (1) 生涯学習環境の整備

ア 学習支援体制の整備・充実

(ア) ぐんま県民カレッジ運営

市町村等と連携した広域的な学習機会提供体制を運営し、県民の多様な学習需要に応えた。

入学登録者数 新規：402人、累計：11,206人

連携機関数 544機関

○ぐんま県民カレッジのつどい（1月18日、参加者：約200人）

・奨励賞（妙義賞14人、榛名賞11人、赤城賞11人）の授与（累計554人）

・記念講演 テーマ：開け！未来の扉を～『日常』の大切さについて～

講 師：前橋育英高等学校 校長 山田 耕介 氏

○ぐんま県民カレッジ地域委員会（県内5会場）

(イ) まなびねっとぐんま運営

県民自らが講座情報等の発信ができるなど、県民の生涯学習を迅速かつ適切に支援することができる本システムの普及・定着に努めた。

アクセス実績 53,440件

(ウ) 学習情報・相談運営

・学習相談室

相談員を配置するとともに、生涯学習関係図書・資料を整備し県民の利用に供した。

相談件数 410件（電話を含む）

・生涯学習図書資料コーナー

関係図書・資料 621点（閲覧用雑誌5誌・新刊図書4冊）

・育児学習室

親同士の交流の場を提供するとともに、子育て支援ボランティアによる活動を支援した。

利用者数 9,623人

育児相談実績

イ 調査研究の推進

「生涯学習ぐんま」作成

・特集テーマ：つながりが創る豊かな家庭教育

～家庭教育支援関係者の連携・協働を一步進めるために～

ウ 人材育成の推進

(ア) 社会教育指導者養成

○社会教育推進セミナー〈移動講座〉（前橋会場・藤岡会場・沼田会場・太田会場）

実施日数：4日間 受講者：137人

(イ) 情報教育指導者養成

○教育メディア指導者養成講座

実施日数：3日間 受講者：18人

(ウ) 社会教育実習生受入指導及びインターンシップ支援事業受入指導等

○実施期間：8月27日～8月31日

社会教育実習生（3名）、インターンシップ生（1名）を受入指導

○実施期間：10月24、25日

高校生短期就業体験（3名）を受入指導

エ ICT活用の推進

(ア) 県視聴覚センター管理・運営

・視聴覚機材・資料を整備し、県民、教育機関等へ貸し出しを行った。

貸出実績 視聴覚教材3,366点、視聴覚機器722件

新規購入 DVD19作品

・ぐんまファミリー映画会

実施日数：3日間、参加者：258人

(イ) 情報教育指導者養成（再掲）

(ウ) 県視聴覚ライブラリー連絡協議会運営

・加盟団体数 14機関

・総会・教育関係者部会（5月24日）開催

・教育メディア指導者養成講座（再掲）

・令和元年度（第45回）県自作視聴覚ソフトコンクール実施

「ビデオ・動画部門」

応募点数：48点 教育長賞（最優秀賞）1点、協議会長賞（優秀賞）2点、

入選5点、審査員特別賞1校

(2) 社会の要請への対応

ア 家庭教育・子育て支援

家庭教育支援者養成

- ・家庭教育支援者養成講座

実施日数：5日間

修了者：20人

受講者（公開講座のみ）：58名

- ・ぐんまの家庭教育応援フォーラム

実施日数：1日間 受講者：108人

- ・家庭教育支援幼児安全セミナー

実施日数：1日間 受講者：56人

- ・ぐんまの親の学びプログラムファシリテーター養成講座

実施日数：2日間、修了者：63人

イ 現代的課題に対応する学習支援

課題解決支援

個人や地域社会が抱える課題が多様化・複雑化する中で、主体的に地域社会の課題解決に取り組む人材を育成するために講座を実施した。

- ・支援講座Ⅰ【地域課題編】

実施日数：3日間、受講者：93人

- ・支援講座Ⅱ【学校と地域の連携協働編】

実施日数：1日間、受講者：298人

(3) 少年科学教育の推進

ア 少年科学館の運営

(ア) 科学展示室運営

- ・展示物36点

- ・科学関係図書等を備えた「しらべコーナー」及び「実験コーナー」を運営

実験コーナー 日・祝休日（14：00～15：00） 参加者：1,713人

サイエンスショー 土曜日（14：30～15：00） 参加者：361人

サイエンスボランティアコーナー 土日祝（12：30～13：30） 参加者：1,108人

(イ) プラネタリウム運営

通年の番組1本、季節ごとの番組8本を投影、番組冒頭に季節ごとの星座解説を行った。また、学校の教育活動に対応した「学習投影」を実施した。

- ・客席：200席

- ・総観覧者：19,099人

- ・学習投影観覧者：4,986人 利用件数：102校園

- ・天文コーナー「4次元デジタル宇宙」の上映 観覧者：3,501人

- ・子ども宇宙教室「夏の星空と天の川」（7月28日） 参加者：63人

- ・天体観察会「夏の星めぐり」（8月7日） 参加者：87人

- ・天体観察会「秋の星めぐり」（11月2日） 参加者：69人

- ・星空とCD音楽の集い（毎月1回、土曜日に実施） 11回 参加者：729人

- ・親と子のプラネタリウム（毎月1回、平日に実施） 参加者：753人

(ウ) 科学実験室運営

おもしろ科学教室等を行うとともに、学校の理科学習等の教育活動を支援した。

- ・一般利用：20,955人

- ・学校利用：学校（幼稚園、小・中・高・特支校：79校4,200人）

一般（4団体42人）

イ 科学教育の充実・普及

(ア) おもしろ科学教室

子どもたちの学校外活動の充実と「科学する心」を育むため、県内関係機関と連携し県内全域で科学実験、野外観察等を実施するとともに、教材集を作成配布した。

- ・実施回数：88回、連携機関：46機関、参加者：3,184人
- ・科学教室運営協力者会議 2回開催
- ・「おもしろ科学教室教材集－30－」（1,100部）の作成・配布

(イ) 学習プログラムの提案・実施

実績 小学校：59校3,519人、中学校：4校212人、高校：4校169人、
特別支援：9校129人

(ウ) 夏とくイベント

・実施期間：7月25日～7月31日（6日間） 参加者：18,923人

ウ 科学教育推進体制の整備・充実

(ア) 学校外活動推進事業

- ・科学教室指導者実技研修会 2月22日 新型コロナウイルス感染症予防のため中止
- ・児童生徒理科研究作品展 7月19日～8月5日 展示作品数：20点
- ・児童生徒理科研究相談会 7月28日 相談件数：12件（33人）

(イ) サイエンスインストラクターの会

総会 2月22日 書面開催
科学教室運営協力者会議 10月12日 台風のため中止

(ウ) 県プラネタリウム連絡協議会

県内プラネタリウム9館とぐんま天文台で組織 4回開催（参加者延べ45人）

(エ) 他機関との連携・協力

・夏とくイベント協力団体：31団体

3 利用状況

(1) 入館者数

		総 数	うち少年科学館			
			プラネタリウム	科学展示室	科学実験室	
入館者数 (人)	令和元年度	255,364	89,478	19,099	45,182	25,197
	累 計	7,621,606	3,775,454	911,372	2,687,145	176,917

(2) 視聴覚センターの利用件数

	視聴覚教材	視聴覚機器
令和元年度利用件数(件)	3,366	722

第3節 群馬県立ぐんま天文台

1 概況

群馬県立ぐんま天文台は、県人口200万人到達記念事業として吾妻郡高山村に建設した、教育普及、観測研究を行う天文台である。

平成11年4月28日にファーストライトを行い一部オープンした後、遊歩道、屋外モニュメント等の完成を待って、同年7月20日に竣工式、翌21日に全面オープンした。

昼間は施設見学、夜は原則として水・木・金曜日を予約団体利用の天体観望日、土・日曜及び祝日を一般向けの天体観望日として広く県民に開放している。

教育普及面では、広く県民を対象とした各種イベントを行っているほか、学校教育に関しては「連携協力校実践事業」「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）」「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）」にも積極的に取り組んできた。また研究面では、国内外の研究機関・研究者との情報交換や超新星・ガンマ線バースト等の天体現象の初期観測、150cm望遠鏡をはじめとする各種望遠鏡とそれらの各種観測施設装置による本格的研究を行ってきた。

他方、平成20年度に「群馬県公共施設のあり方検討委員会」での検討結果で「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強く求められる施設」とされた。

このことを踏まえ、平成21年度以降の事業展開にあたり、管理運営費の削減と運営体制の見直しを行った。さらに、学校利用の一層の促進や県民の学習施設として、教育普及事業に重点を置いた施設運営を推進するとともに、学校や地域に積極的に出向き、県内における天文学のすそ野拡大を図っている。

平成24年度には、専門家、地域代表、有識者等からなる「県立ぐんま天文台のあり方検討委員会」において、運営方針等について検討し、今後のぐんま天文台のあり方について提言を受けた。この提言を受け、平成25年度「天文学の教育普及に重点を置き、『天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設』として、効率的な施設運営と利用者の拡大に努め、県民に親しまれるぐんま天文台として運営する」との新しい運営基本目標並びに「本物の体験」「開かれた利用」「学校・地域との協働」を柱とした事業基本項目を定め、事業を展開している。

2 施設見学・一般観望

天文台は眺望も良いため、日中の施設見学者が51%（令和元年度）を占めている。夜間の利用については、原則として水・木・金曜日の団体予約利用日を学校や生涯学習団体等の観望・学習の日として設定し、土・日曜及び祝日を予約なしで自由に観望できる一般観望日としている。

3 教育・普及活動

(1) 学校利用

令和元年度は116校、4,037人の学校等団体利用を支援した。利用する学校側の意識は、単に施設見学をしたり観望したりするだけではなく、明確な学習目的を持って利用する学校が増えてきている。特に高等学校では、専門的な内容を授業に取り入れたり、観測実習を実施したりと、科学教育の中での位置づけを意識して利用している傾向が強い。

(2) 天文台学校利用見学会の実施

天文台の学校利用を促進するため、北毛青少年自然の家と連携し、同施設主催の学校利用説明会の場において、同施設利用予定の学校に対して、天文台の活用方法や天文台が提供している学習プログラムの紹介等を行った。また、学校利用説明会終了後に、独自の天文台学校利用見学会を実施し、希望する学校に対して天文台施設の案内を行った。

4月11日（木） 見学会参加者17名

(3) 高等学校特別科学教育支援

令和元年度は、SSH支援を県内1校について2件の高等学校特別科学教育支援を実施した。また、県内外の高等学校の科学部・地学部等の活動での利用が多数ある。

(4) 子ども向け事業

天文台職員による県内教育文化施設等での子ども向け出張講演会（子ども宇宙教室）を2回実施した。

(5) 主なイベント

日付	行事内容	参加者数(人数)
4月27日～5月6日	ゴールデンウィーク特別企画	4,392
5月25日、7月27日	星空さんぽ	384
4月13日(他3回)	スマホやデジカメで月を撮ろう	466
7月26日～8月25日(18日間)	夏休み特別企画	5,832
8月13日	ペルセウス座流星群説明会・観察会	1,000
12月14日	ふたご座流星群説明会・観察会	956
12月26日	部分日食観察会	39

4 観測研究

県民への教育普及活動での活用等を図るため、幅広い観測研究を行った。

5 月別観覧者数(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2,043	5,020	2,180	2,152	7,198	2,194	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3,164	2,872	1,678	520	1,236	53	30,310

※令和2年3月2日(月)から新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館

6 年度別観覧者数(人)

平成11-26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	累計
577,963	29,513	29,018	28,210	39,786	30,310	734,800

第4節 群馬県立ぐんま昆虫の森

1 概況

群馬県立ぐんま昆虫の森は、昆虫の生きた姿に直接触れ、生きものの相互依存に学び、生命の大切さや自然への理解と共感する心を育てるため、里山として豊かな自然が残されている桐生市新里町(旧勢多郡新里村)不二山地域に整備したものである。

平成14年6月から、雑木林ゾーン及び桑畑ゾーンの2つのゾーンについて一部利用を開始し、昆虫観察館等全ての施設が完成した平成17年8月1日に全面オープンした。

開園後は、雑木林や田畑等45ヘクタールにもおよぶ園内を、生物の棲息空間として維持管理しながら、昆虫の森ガイドや自然観察会、飼育室探検ツアー、ふれあいコーナー、クラフト体験、里山生活体験等さまざまなプログラムを展開し、平成30年の10月6日に開園以来の入園者が150万人に達した。

令和元年度は、企画展、季節展、虫の絵作品展、フォトコンテスト作品展などの展示会を開催するとともに、新聞雑誌等の取材対応、県内外の各種観光イベントへの展示ブース出展を通じて、ぐんま昆虫の森の広報普及に努めたほか、幼稚園・保育所及び学校関係者を対象に利用説明会を5回開催し、学校行事等としての見学利用の促進を図った。

これまでに、多くの学校関係者が視察し、総合学習や理科の学習の一環として、あるいは遠足等で県内外の小学校、幼稚園・保育所が利用するとともに、ボーイスカウトなどの各種団体や多くの家族連れなどが来園した。

なお、ぐんま昆虫の森の運営で欠かせないのがボランティアで、登録者112名を数え、自然観察会や昆虫観察会等のガイドとして大きな役割を果たしている。

ぐんま昆虫の森は、平成20年度に「群馬県公共施設のあり方検討委員会」での検討結果で「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強

く求められる施設」とされた。

このことを踏まえ、経費全体を抑えながらも昆虫の森の魅力を損なわず有効に活用するため、園全体の運営を見直し、学校教育補完施設と位置づけてフィールドの魅力を高め、様々な学校利用促進策や地元との連携強化による入園者増加策等を展開している。

2 教育・普及活動

ぐんま昆虫の森は、身近な自然の中で生きものを見つけて、環境と生きものの関係を自主的に知るきっかけをつくる場所である。このため、様々な体験プログラムを来園者に提供し、気軽に生きものと出会える機会を提供している。

(1) 里山歩き・自然観察会

園内の見どころを紹介するほか、季節ごとにかわる生きものたちの様子を詳しく観察するガイドツアーを実施した。

(2) 里山生活体験

かやぶき民家を中心に、養蚕体験、稲作体験、草木染め等かつての里山生活の体験や昔遊びなどを体験できるプログラムを実施した。

(3) 飼育室探検ツアー

普段入れない飼育室の様子を見たり、昆虫専門員が生きものの不思議について説明したりする飼育室探検ツアーを実施した。

(4) クラフト体験

まゆクラフト、どんぐりクラフト、ウッドクラフト等、昆虫の森での産物を使った様々なクラフト体験を実施した。

(5) 温室ガイド

スタッフのガイドで昆虫ふれあい温室を観察しながら、温室内にチョウを放す体験ツアーを実施した。

(6) ふれあいコーナー

カブトムシやクワガタムシなどの身近な生きものに触れ合える体験を実施した。

(7) 常設展示「昆虫のすばらしい世界」

写真や図、生態展示や標本などを用いて、昆虫について基礎からわかりやすく解説した。

(8) 映像シアター

里山で昆虫たちがどのように暮らしていて、どんな方法で観察するのかなどをわかりやすく解説した映像を上映した。

(9) 昆虫おもしろ講座

名誉園長が、昆虫にまつわる話題などをスライドを交えてわかりやすく解説し、子どもたちの昆虫に関する疑問に対して直接回答した。

(10) 別館プログラム

昆虫観察館別館では、昆虫標本を作製する「昆虫教室」や、季節の昆虫に関する絵本の読み聞かせや紙芝居などをする「むしのおはなし」を実施した。

(11) 自然観察会

- ・ホタル観賞会（6月8日・15日 参加者1,140人）
- ・夜の雑木林の昆虫（7月27日 参加者330人）
- ・夜の鳴く虫（9月7日 参加者15人）

(12) 飼育講座

- ・ナナフシ飼育講座（4月27日、5月6日 参加者203人）
- ・ノコギリクワガタ飼育講座（10月12日・19日・20日・26日 参加者276人）
- ・オオクワガタ飼育講座（11月16日・17日、23日・24日、30日、12月1日 参加者1,002人）
- ・カブトムシ飼育講座（2月29日 参加者71人）

3 企画展等イベントの開催状況

NO	企画展等の概要	開催期日	期間中の入園者数(人)
1	季節展「虫たちの季節がやってきた！」 (早春編)	3月2日～4月21日	12,687
	同 (初夏編)	4月25日～6月30日	31,785
2	第16回企画展「新種昆虫発見！」	7月6日～10月28日	63,009
3	県民の日イベント	10月28日	2,193
4	季節展「秋の野山の昆虫展」	8月31日～10月28日	28,310
4	第14回「虫の絵」作品展	11月2日～12月24日	13,712
5	季節展「昆虫たちの冬越し展」	1月5日～2月24日	9,425
6	第14回「フォトコンテスト」作品展	1月5日～2月24日	9,425
7	季節展「虫たちの季節がやってきた！」 (早春編)	2月29日～4月19日	484 ※3/2から休園

4 月別入園者数(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
9,451	17,221	10,695	12,529	23,100	9,680	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17,700	9,170	4,542	3,447	6,203	259	123,997

※平成30年10月6日 110万人到達

5 保育所・幼稚園、小学校等の団体利用状況 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	保・幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援	合計
利用団体数	139	285	3	3	2	432
利用者総数	5,499	18,393	360	43	16	24,311

6 昆虫の森学校利用説明会の実施

ぐんま昆虫の森の学校利用を進めるため、県内の保育所・幼稚園及び小中学校等の教員を対象とした説明会を開催し、施設の活用方法や施設が提供している学習プログラムの紹介等を行った。令和元年度は、5回実施した。

・小中学校利用説明会

第1回7月24日、第2回7月25日、第3回7月26日、第4回8月20日、第5回8月21日

参加者計112人(46校)

7 昆虫の森・天文台自然学習教室事業の実施

県内市町村立小学校等が、ぐんま昆虫の森及びぐんま天文台において自然学習教室を実施した場合、それに要する経費(バス借上料)の一部を助成した。

区分	事業内容
市町村立小学校等	11市7町2村2学校法人 180校 12,048人 356台

第5節 ボランティアと協働した施設の運営

1 図書館ボランティア

図書館でのボランティア活動を希望する人々に対し、図書資料の配架、イベント時の補助等生涯学習の活動の場を提供するとともに、高校生を対象に社会参加と体験活動の場を提供し、県民の参加による「明るく、開かれた、親しまれる図書館」づくりの促進を図った。

活動人員 一般69人、高校生23人 計92人

2 ぐんま天文台ボランティア

天文台では、来館者の誘導・案内、星座解説、自主企画イベントの計画と実施、周辺環境の整備を行うボランティアが活躍した。

活動人員 51人

3 ぐんま昆虫の森ボランティア

昆虫の森では、自然観察会や昆虫観察会、昆虫ふれあい温室等の案内やクラフト体験の指導、昆虫飼育等を行うボランティアが活躍した。

活動人員 104人 延べ活動日数 2,513日

4 生涯学習センターボランティア

生涯学習センターでは、館内ボランティアが、子育て支援及び少年科学館運営の2分野で活動を行った。

活動人員 延べ97人（子育て支援23人、少年科学館運営74人）

第2章 学習情報提供・相談体制の整備・充実

第1節 学習情報提供体制

1 学習情報提供システムの運用

県民の生涯学習活動を支援するため、インターネットを利用した誰でも、いつでも、どこでも、必要な学習情報を容易に入手することができる群馬県生涯学習情報提供システム「まなびねっとぐんま」（インターネット方式）を平成12年6月20日から運用している。

平成21年4月1日から、会員登録した県民個人・県民の団体及び関係機関等が、自ら企画した講座・イベント情報や活動内容の発信ができるなど、より利便性の高い新システムに移行して運用を開始し、その普及・定着を図った。

情報提供分野及びデータ件数（令和元年度末現在）

提供分野	データ数	提供分野	リンク数
講座・イベント情報	2,989	ボランティア	5
(うち県民カレッジ情報)	(364)	女性支援	7
講師・人材情報	90	キャリア支援	11
団体情報	73	子育て支援	13
活動紹介	37	合計	36
視聴覚教材・機材	5,296		
合計	8,485		

年間アクセス件数：53,440件

会員別登録数（令和元年度末現在）

端末種類	登録会員数
業務会員	664
一般会員	90
団体会員	73
合計	827

第2節 学習相談体制

1 学習相談室の運営

生涯学習センターに学習相談室を設置し、相談員により学習に関する相談に応じるとともに、「まなびねっとぐんま」の情報を検索できるパソコンや生涯学習関連図書・資料を整備し、県民や関係者の利用に供した。

相談件数：410件

関係図書・資料数：621点（閲覧用雑誌5誌・新刊図書4冊）

第3章 子ども読書活動推進

第1節 子ども読書活動の推進

1 子ども読書活動推進計画（平成27年度～令和元年度）

子ども（おおむね18歳以下の者をいう。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

しかし、近年、子どもの読書離れが指摘されており、読書に対する興味や関心を高めるための環境整備が求められていることから、「子どもの読書活動の推進に関する法律」などを踏まえ策定した「群馬県子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、子どもの読書活動の推進を図った。

<計画期間（平成27～令和元年度）における目標設定及び達成状況>

(1) 1日当たり30分以上の読書をしている小中学生の割合の向上

区分	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	平成30年度 (目標年度)
小学校6年生	40.6%	39.2%	39.3%	44.5%	43.4%	50.0%
中学校3年生	34.5%	31.5%	32.5%	34.4%	29.7%	50.0%

※「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）による。

区分 (自治体数)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	平成31年度 (目標年度)
市 (12)	66.7% (8)	66.7% (8)	83.3% (10)	91.7%(11)	91.7%(11)	100.0% (12)
町村 (23)	60.9% (14)	69.6% (16)	73.9% (17)	78.3%(18)	78.3%(20)	100.0% (23)
市町村(35)	62.9% (22)	68.6% (24)	77.1% (27)	82.9%(29)	88.6%(31)	100.0% (35)

※「都道府県及び市町村における子ども読書活動推進計画の策定状況調査」（文部科学省）による。

(3) 公立図書館と連携している小・中学校の割合の向上

区 分	平成24年度 (基準年度)	平成26年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	平成30年度 (目標年度)
小学校	53.2%	60.6%	63.3%	未実施	未実施	60.0%
中学校	32.3%	27.1%	35.2%	未実施	未実施	50.0%

※「学校図書館の現状に関する調査」(文部科学省)による。

2 群馬県読書活動推進計画(令和2年度～令和6年度)

平成31年4月に施行された「群馬県民の読書活動の推進に関する条例」の趣旨を踏まえ、全ての県民が生涯にわたり、様々な場で読書活動が行えるよう環境整備を行うことを基本理念とした「群馬県読書活動推進計画」を令和2年3月に策定した。

県民の読書活動の推進を図るとともに、設定した指標の達成状況の把握により計画の進行管理を行っていく。

<計画期間(令和2～6年度)における目標設定>

(1) 1日当たり30分以上の読書をしている小中学生の割合の向上

区 分	平成30年度 (基準値)	令和6年度 (目標値)
小学校6年生	44.5%	50.0%
中学校3年生	34.4%	50.0%

※「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)による。

(2) 市町村における子ども読書活動推進計画策定率の向上

区 分	平成30年度 (基準値)	令和6年度 (目標値)
市町村(35)	82.9%(29)	100.0%(35)

※「子供読書活動推進計画の策定状況調査」(文部科学省)による。

(3) 県内の公共図書館の年間貸出点数の増加

H30年度 (基準値)	R6年度 (目標値)
10,455,978点	10,500,000点

※「群馬県の図書館」(県立図書館)による。

3 ぐんま読書フェスティバルの開催

県民の読書活動の推進を図るため、ぐんま読書フェスティバルを開催した。

日 時 11月30日(土) 13:00～16:30

場 所 生涯学習センター

第1部 第15回子ども朗読大会

応募者数 126人(小・低学年39人、小・高学年36人、中学生51人)

出場者 15人(小・低学年5人、小・高学年5人、中学生5人)

表彰 各部門ごとに最優秀賞1名、優秀賞2名、奨励賞2名を表彰

第2部 講演会「わたしの絵本」

絵本作家 内田麟太郎氏

観覧者 143人
企画展示
「学校司書が出会ったいい本」

4 県立図書館における取組

県立図書館において、児童図書の充実整備とあわせて図書館こどもまつり、学校図書館研修会、学校図書館図書支援1000冊プラン、学習支援・朝の読書推進図書セットの貸出し等を実施した（第1章・第1節・4事業概要・(1)子ども読書活動推進事業参照）。

5 その他の関連事業

(1) 優良図書館群馬県教育委員会表彰

社会教育の中核施設である図書館の充実振興を図るため、その運営が地域社会の繁栄と住民の生活文化の向上に顕著な実績をあげている図書館を優良図書館として表彰した。

○令和元年度受賞館：安中市図書館

(2) 群馬県読み聞かせボランティア顕彰

地域における子どもの読書活動への貢献が顕著なボランティアを顕彰し、その熱意と努力に報いるとともに、広く県下に紹介することによって、子どもの読書活動推進の振興を図った。

○令和元年度受賞団体

- ・古巻読書ボランティアまぎーぐるす小学校部（渋川市）
- ・新町図書館おはなしの会（高崎市）
- ・桐生市立東小学校読み聞かせボランティア（桐生市）
- ・太田市立太田東小学校読み聞かせボランティア（太田市）
- ・館林市立美園小学校読み聞かせ ぽんぼこ（館林市）
- ・ひばりの会（邑楽町）

(3) 子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰（文部科学大臣表彰）

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日）の制定を受け、平成14年度から文部科学大臣が子どもの読書を推進する活動が顕著で優秀と認められる学校、図書館、団体（個人）を表彰しており、令和元年度においては、本県から、学校2校、図書館1館、及び1団体が表彰された。

○令和元年度受賞校、図書館、団体（※推薦は前年度）

- ・館林市立第三中学校
- ・樹徳高等学校
- ・富岡市立図書館
- ・桐生おはなしの学校